

**第61回中国・四国地区
高等学校PTA連合会大会鳥取大会報告**
県高P連副会長(下関商業高校会長) 佐々木 義徳

第61回中国・四国地区高等学校PTA連合会大会鳥取大会が、令和最初の大会として、7月12日に鳥取県鳥取市のとりぎん文化会館梨花ホールにて

「ひらけ翼！はばたけ未来！」巢立ち応援、親力！」の大会テーマのもと、1500人以上の参加者が集い盛大に開催されました。



鳥取市までの道のりは長く、私は新下関駅からこれまで広島までの各駅停車で山口県のPTAの参加者を各駅で迎えながら広島乗り換えで岡山まで行き、岡山からは特急いなばで鳥取市まで約3時間半余りをかけて参りました。

特急いなばに乗って私は車両の最後部の座席で目を瞑り、スマホにイヤホンを挿し音楽を聴いていました。ふと目を開けると乗客のみんなが立ち上がっていて、一瞬なにか事件でも起きたのかと慌ててイヤホンを外し、どうした？どうした？と聞いてみると、次の駅で進行方向が変わるので座席を180度回転させるという放送があったようで、そのためにみんな立ち上がっているとのこと

した。事件でなくほっとしたのと同時に進行方向が変わる列車というのも珍しいなと思いきや、最後尾に座つた私は、進行方向が変わったのでここからは最前列になった状態で、のどかな田園風景や、緑の濃い山々ばかりの中、のんびりとした時間を経て、鳥取駅に着きました。

天気予報では雨の確率が高くなっていましたが、傘が必要なほどの降りではありませんでした。

さて大会ですが、フリーアナウンサーの濱井丈栄さんの美声による司会のもと始まり、国歌斉唱の後、中国・四国地区高等学校PTA連合会の西川昌孝会長のあいさつ、続いて一般社団法人全国高等学校PTA連合会の牧田和樹会長あいさつ、鳥取県教育委員会の山本仁志教育長のあいさつがありました。

来賓から、平井信治鳥取県知事が祝辞を述べられました。知事は、鳥取県は非常にたくさん星が見えることから、星取り県と呼んでおり、なぜ星がたくさん見えるか？それは明かりが少ないからです、など自虐ネタをふんだんに取り入れながら、ユーモアいっぱい鳥取県の良さをアピールされました。知事は終始なにも原稿を見ずにすらすらとお話され、私はその話術に引き込まれてしまいました。

そのあとに祝辞を述べられた鳥取市長は、話づらかったらうなと同情を覚えました。

休憩をはさみ、「バカの壁」でも有名な養老孟司氏が「養老流 親と子の話」

くたくましく生きる力をテーマに講演されました。

片手ポケットで歩き回りながら話をされているのを見て、さすが講演慣れしているなと感じました。

講演の内容は、ご本人と母親とのかかわりについてのお話でしたが、お話が高度なものでしょう、凡人の私にはイマイチ内容を理解することが難しかったです。

テーマに沿ったお話だったのかさえよく分かりませんでした。テーマについての最終のお言葉は、「まあ皆さんでしっかり考えてやってください」でした。なんて自由なんだろう、これが物書きの姿なんだろうと感じました。

昼食をはさみ、午後からは高校生による発表があり、最初に鳥取県立岩美高等学校による、「街がスウィングする♪」というテーマでジャズの演奏でした。前身は吹奏楽部でBlue martin Jazz Orchestraというバンド名で2006年7月に結成されたそうです。色々な大会に参加し、各賞も受賞した経験もあり、とても素敵な演奏でした。

次に鳥取県立鳥取湖陵高等学校による「戦国の武士を詠う」をテーマとした吟、舞、剣が披露されました。古式ゆかしく日本の文化を感じさせる、とても厳かな時間と感じました。

最後に鳥取県立八頭高等学校 書道部による本大会の「翼！はばたけ未来！」をテーマにして、書道パフォーマンスが行われました。平成21年に書道の愛媛大会で三島高校のパフォーマンスに感銘を受けた顧問の先生がその後、鳥取東高校

で始められ八頭高校に継承されているようです。生徒の代表で、「10年前、先生と他県の方とご縁が今の私たちに繋がっているで全ての方に感謝している」と言っていました。その言葉通り思いの詰まった迫力のあるパフォーマンスを披露していました。

休憩を挟み、研究協議として、広島県から広島県立三次中学校・高等学校がテーマ「親の背中」〜こどもの未来のために、岡山県から山陽女子中学校・高等学校がテーマ「愛と奉仕そして感謝」〜133年をふりかえって、鳥取県から鳥取県立鳥取東高等学校がテーマ「大切にしたい思春期の食生活」〜親から子に伝える生きる力〜の発表が行われました。各発表者の皆さんは、その地域の特色や学校の歴史などを踏まえてさまざまな活動による親、子、地域・学校、の関係をとても熱心に分かりやすく説明され、たいへん勉強になりました。こういう発表を、今後はその場に行けない人の為にも、動画などで配信できれば、より多くの方々に活動内容が伝わり、PTAに対しての関心や、取り組み方の周知が行われ、子供たちの為にながでできるかを考える良い機会になるのになと思います。そして今後益々進んでいくであろう少子化の波に向かつて、一人一人がなにをするのか、なにができるのかを考え、既成概念にとらわれず、思い切った行動により、より子供たちのためになるようPTAは努力していくべきだろうと考えました。

第69回全国高等学校PTA連合会大会 京都大会報告

県高P連副会長(宇部中央高校会長) 金沖真須代

令和元年8月22、23日の2日間、京都市勤業会館みやこめっせ及びロームシアター京都にて、第69回全国高等学校PTA連合会大会京都大会が開催されました。全国より約1万人の会員が集い、山口県からは1つ5名の参加がありました。

当会館は平安神宮隣地で、参道を通り会場入りました。大会1日目の開会前のアトラクションとして出迎えてくれたのは、京都府立工業高等学校吹奏楽部『Mambo Jazz Band』による

ジャズ演奏。華やかさと鮮烈さに胸が高鳴り始めました。

開会式は、永岡佳子文部科学副大臣をはじめ、渡辺博道復興大臣、西脇隆俊府知事、袴姿の門川大作市長と多くのご来賓の方々のご列席の元、開催されました。

今大会テーマは、

「Kyôから！未来を拓く」

〜受け継ぎ、創る新たなストーリー〜

「これまでのPTA活動の財産を継承し、今後のPTA活動の発展向上を期待して、互いに学び語り合い交流する中で、保護者として、大人としての意識を高め行動していきたい。」と実行委員長より

歓迎のあいさつがあり、その後の表彰式では、優良PTA文部科学大臣表彰を下関中等教育学校PTA。全国大会会長表彰(個人)を徳山商工高等学校の長村聡子さん、宇部西高等学校の長見敦宏さん、長府高等学校の長岡敏信さん(3名とも前県連副会長)が受賞され、同(団体)を徳山商工高等学校PTA、宇部中央高等学校PTAが受賞。さらに、役員表彰者に、全国理事及び中国

四国地区会長として長年兼任された、板谷正顧問が受賞されました。受賞された個人、団体のみなさんおめでとうございませう。

引き続き6会場で分科会が開催されました。「よくできる」とはどういうことか?、「子供たちを育む環境づくり」、「すぐその未来の仕事」、「高校生の人間関係について考える」、「情報教育を体験する」、「我が子の進路選択にどう向き合う?」が各会場でテーマに掲げられ、新ガイドラインに沿った形式(参加型の研修会)で行われました。

私は第1分科会の「よくできるとはどうか?」に参加しました。講師は歌人で物理学者である和田宏氏。基調講演では、「現状の教育は、試験の成績が良い(早く正解に辿り着き答えられる)、偏差値が良い(いい大学に行ける)、理解力が高い(豊富な知識を持ちそれを応用出来る)、もっと言うと、小中高校までは正解は必ず1つであり、暗記した正解を答えられるのがよくできることになってしまっている。」

「私は、湯川秀樹に憧れて京都大学へ進学した。入学式で奥田東先生(当時の総長)から『京都大学は、特に何も教えませぬ』と言われた事を振り返り、

